

全国児童養護施設調査 2014

施設で生活する高校生の本音アンケート

認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル

調査チーム

2014 年 12 月

1、 施設で生活する高校生の本音アンケート.....	3
2、 調査項目.....	4
3、 施設で生活する高校生の自己肯定感について.....	5
(1) 一般高校生との比較.....	5
4、 施設で生活する高校生の進路について.....	7
(1) 希望職種の有無と希望進路.....	7
(2) 性別、学年による進路の違い.....	8
5、 施設で生活する高校生のアルバイトと貯金について.....	11
(1) 実際の貯金額と目標貯金額.....	11
(2) 貯金をしている理由.....	11
(3) アルバイトの現状.....	12
6、 施設退所後の生活について.....	13
(1) 退所後の生活で心配なこと、実際に困ったこと.....	13

1、施設で生活する高校生の本音アンケート

認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル

2014 年度全国児童養護施設調査 調査結果まとめ(11 月 15 日版)

1、調査目的

施設入所中の高校生の実態を知る事で、今後の支援の方向性を決める、また、一般高校生との比較により、問題点を明らかにする。

2、調査対象

全国の児童養護施設(596 か所)の高校生(約 6000 人)

3、調査の方法

自己記入式のアンケートによる。

4、調査の実施時期

2014 年 6 月から 2014 年 9 月まで

5、回答者数

173 施設(回答率 29.03%)。高校生 1079 名(回答率約 18%)。

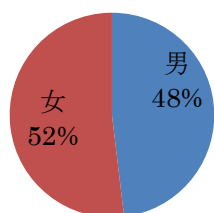
6、調査結果の集計方法

設問ごとに、有効回答数を母数とした。返送されたアンケートの回答のうち、施設対象のアンケートは、不明なものは電話で記入者に確認し、得た回答に応じた。高校生アンケートに関しては本人確認ができないため、電話での確認は行っていない。

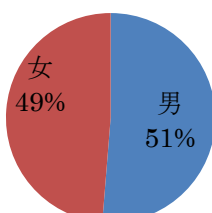
図表 1、施設で生活する高校生の本音アンケート回答者背景

	男	女	他	合計
高 1	165	178	0	343
高 2	181	172	1	354
高 3	201	164	1	366
他	4	8	4	16
合計	551	522	6	1079

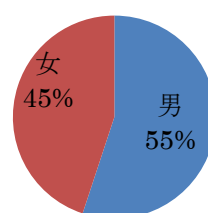
高校1年生の男女比



高校2年生の男女比



高校3年生の男女比



47 都道府県の 596 施設にアンケート記入をお願いし、そのうち 1079 人の高校生入所者から回答をいただきました。全国の高校生入所者の人数が約 6000 人なので、回答率は約 18%となりました。

回答いただいた高校生の背景としては、各学年の比率、学年ごとの男女比率ともに、バランスの良い結果になりました。学年において高 1、高 2、高 3 の他には、未記入と高校 4 年生という回答がありました。性別に関しては男、女の他には、未記入がありました。

2、調査項目

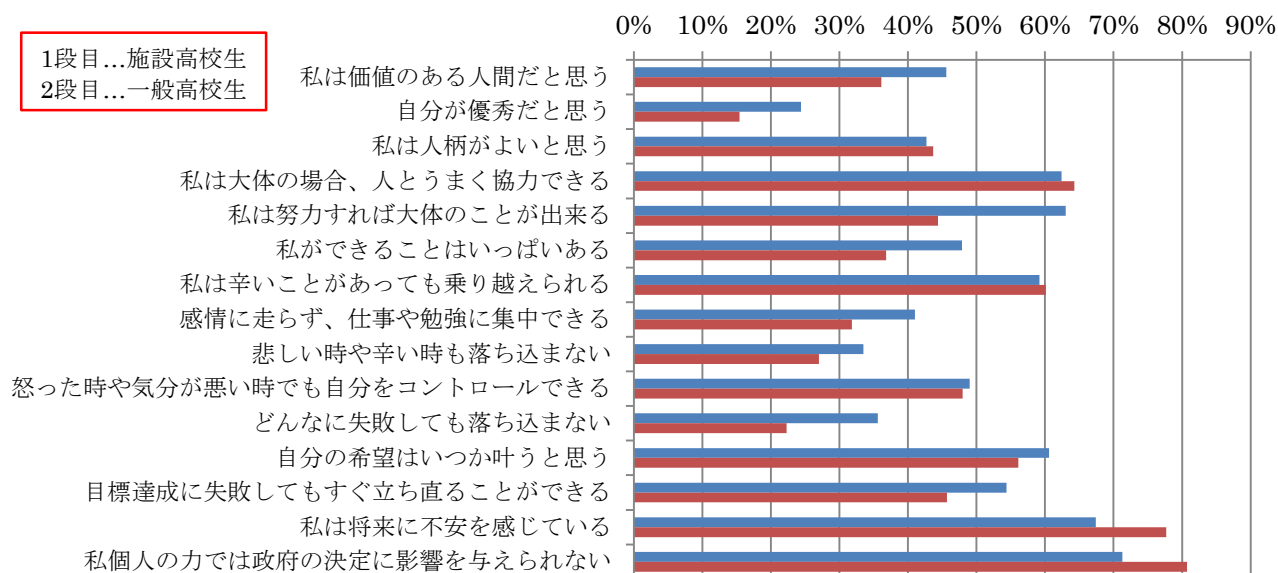
- 1.回答者の学年、性別
- 2.自己肯定感の度合い
- 3.今後の進路について
 - 1)希望職種の有無
 - 2)希望する進路
 - 3)予想する進路
 - 4)希望進路と予想進路のギャップの理由
- 4.貯金、アルバイトについて
 - 1)現在・目標の貯金額
 - 2)貯金の理由
 - 3)一週間あたりのバイト時間
- 5.退所後に心配なこと
- 6.自由記述

3、施設で生活する高校生の自己肯定感について

(1) 一般高校生との比較

図表 2、施設で生活する高校生と一般家庭で生活する高校生の自己肯定感

一般高校生と施設高校生の自己肯定感の違いについて(全くそうだ、まあそうだの割合)



「全くそうだ」、「まあそうだ」の割合の差(“施設高校生” — ”一般高校生”)

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1、私は価値のある人間である。 | 9.5pts |
| 2、自分が優秀だと思う | 9.0pts |
| 3、私は人柄がよいと思う | -1.0pts |
| 4、私は大体的場合、人とうまく協力できる | -1.9pts |
| 5、私は努力すれば大体的ことができる | 18.6pts |
| 6、私ができることはいっぱいある | 11.1pts |
| 7、私は辛いことがあっても乗り越えられる | -0.9pts |
| 8、感情に走らず、仕事や勉強に集中できる | 9.2pts |
| 9、悲しい時や辛い時も落ち込まない | 6.5pts |
| 10、怒った時や気分が悪い時でも自分をコントロールできる | 1.0pts |
| 11、どんなに失敗しても落ち込まない | 13.3pts |
| 12、自分の希望はいつか叶うと思う | 4.5pts |
| 13、目標達成に失敗してもすぐ立ち直ることができる | 8.7pts |
| 14、私は将来に不安を感じている | -10.3pts* |
| 15、私個人の力では政府の決定に影響を与えられない | -9.4pts* |

*注1：14、15はネガティブな質問

各質問の2段目の結果は、財団法人日本青少年研究所「高校生の心と体の健康に関する調査」(2011年3月)、「中学生・高校生の生活と意識」(2009年2月) <http://www1.odn.ne.jp/youth-study/research/index.html> 参照。

自己肯定感を表す質問に対しては、ほとんどの質問で、一般の高校生に比べて、施設高校生の方が、「全くそう
だ」、「まあそうだ」の割合が高い結果となっています。ただ、アンケートに答えてくれている施設高校生は優等
生が多く、自己肯定感が高くなっている可能性も考えられます。また、今回回答していただいた施設に、入所し
ている高校生の総数は1602人*であることを考えると、67.4%の回答率となっていますが、回答していただいた
施設の偏りということも、生じている可能性としては考えられます。

以上の2点のバイアスがかかっている可能性はありますが、施設の子の自己肯定感が高いというのは、今まで
の認識とは異なるもので、興味深い結果となっています。施設職員による養育の成果が出ているのか、逆境に置
かれているが故のレジリエンス(精神的回復力)なのか、今後のより深い考察が求められます。

*注2：高校生の総数(1602人)は、今年度の「社会的自立に向けた支援に関する調査」(弊団体実施)のデータを引
用しています。

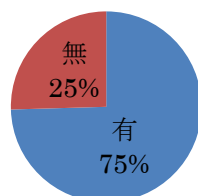
4、施設で生活する高校生の進路について

(1)希望職種の有無と希望進路

図表 3、希望職種の有無と希望進路の関係

・希望職種の有無

就きたい職業	度数	割合
有	785	74.6%
無	268	25.5%
欠損値の度数=26		

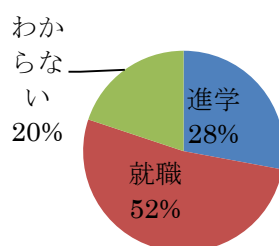
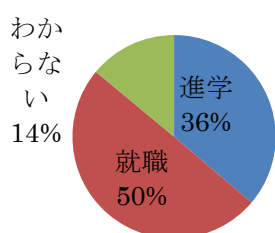


・希望する進路

希望進路	度数	割合
進学	381	36.2%
就職	524	49.8%
わからない	147	14.0%
欠損値の度数=27		

・予想する進路

予想進路	度数	割合
進学	292	27.9%
就職	546	52.2%
わからない	208	19.9%
欠損値の度数=33		

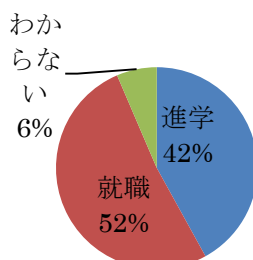
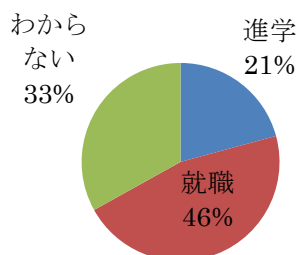


・希望職種がない人の希望進路

希望進路	度数	割合
進学	54	20.8%
就職	120	46.2%
わからない	86	33.1%
欠損値の度数=8		

・希望職種がある人の希望進路

希望進路	度数	割合
進学	319	42.0%
就職	392	51.2%
わからない	49	6.5%
欠損値の度数=22		



全体として、希望する進路も予想する進路も、進学率は低くなっています。一般的な進学率は、全国最低の沖縄でも38.2%*(専門学校を含まない)でこの値よりも、低い結果となっています。今回のアンケートでは、専門学校が進学という選択肢に含まれているのか曖昧なため、単純な比較はできませんが、それでも、施設入所者の進学希望率は明らかに低いといえます。

また、希望職種のある高校生の希望進路と、希望職種のない高校生の希望進路を比較すると、希望職種のない高校生の進学の割合が低くなっています。つまり、施設に入所している高校生にとって、「将来の具体的な夢がないからとりあえず進学」という考え方はあまりないといえます。

注3：文部科学省「学校基本調査」(2013年12月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1342607.htm 参照。

(2)性別、学年による進路の違い

図表4、性別、学年と希望進路、予想進路の関係

・進路と学年の関係

希望進路	学年					
	高1	高2	高3	その他	未記入	合計
進学	132	131	110	2	6	381
	39.5%	38.5%	30.5%	40.0%	50.0%	
就職	140	156	220	3	5	524
	41.9%	45.9%	60.9%	60.0%	41.7%	
わからない	62	53	31	0	1	147
	18.6%	15.6%	8.6%	0%	8.3%	
合計	334	340	361	5	12	1052
欠損値の度数=27						

予想進路	学年					
	高1	高2	高3	その他	未記入	合計
進学	92	97	95	2	6	292
	27.7%	28.7%	26.5%	40.0%	50.0%	
就職	140	173	226	2	5	546
	42.2%	51.2%	63.0%	40.0%	41.7%	
わからない	100	68	38	1	1	208
	30.1%	20.1%	10.6%	20.0%	8.3%	
合計	332	338	359	5	12	1046
欠損値の度数=33						

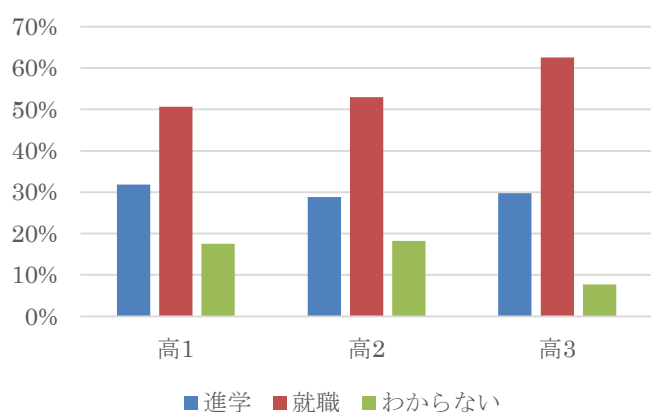
・進路と性別の関係

希望進路	性別			
	男子	女子	未回答	合計
進学	162	217	2	381
	30.3%	42.6%	28.6%	
就職	296	224	4	524
	55.3%	43.9%	57.1%	
わからない	77	69	1	147
	14.4%	13.5%	14.3%	
合計	535	510	7	1052
欠損値の度数=27				

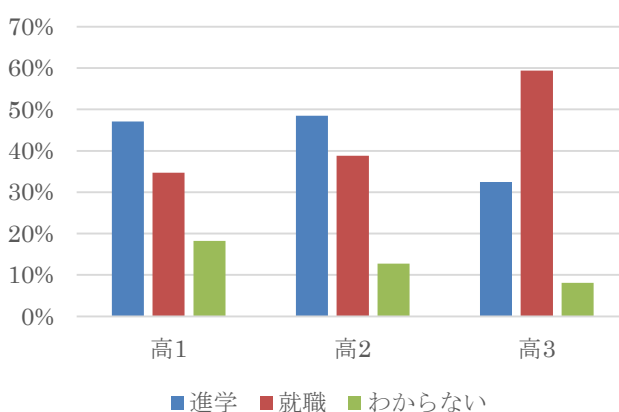
予想進路	性別			
	男子	女子	未回答	合計
進学	129	161	2	292
	24.2%	31.8%	28.6%	
就職	306	236	4	546
	57.4%	46.6%	57.1%	
わからない	98	109	1	208
	18.4%	21.5%	14.3%	
合計	533	506	7	1046
欠損値の度数=33				

・希望する進路と性別・学年

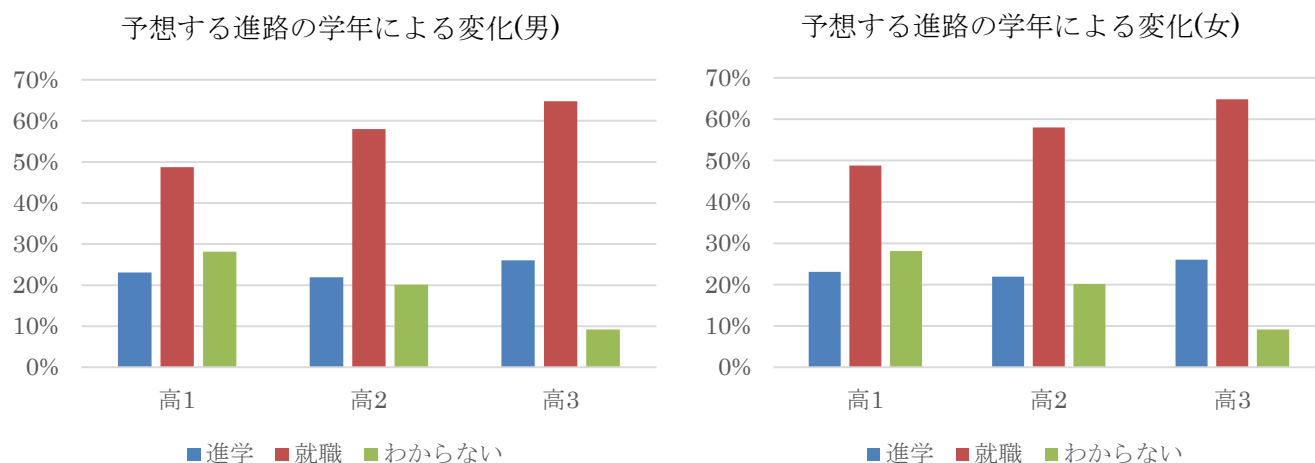
希望する進路の学年による変化(男)



希望する進路の学年による変化(女)



・予想する進路と性別・学年



希望進路と予想進路ともに、学年が上がるにつれて、就職が増えていきます。性別に関して見てみると、女子の方が進学割合が多くなっています。性別によって、将来の職種が違ってきて、それにより進学の割合に違いが生じているのかもしれない。

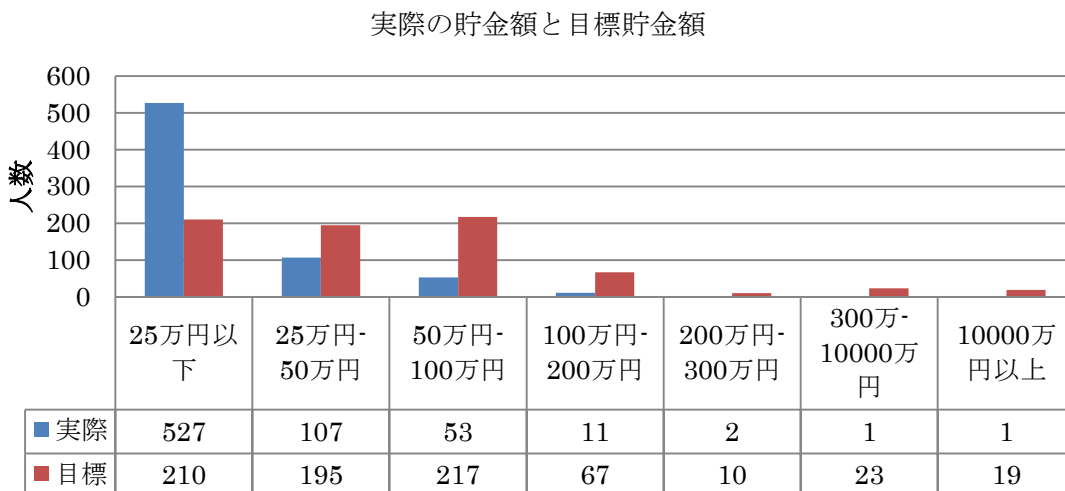
学年と性別両方に関して見ていくと、女子の希望進学の割合は高校3年生になると、かなり減少していることがわかります。その他は、男女ともに学年があがるにつれて、就職の割合が増え、わからないの割合が減っています。

また、予想する進路と希望する進路の違いに関して、希望する進路が進学で、予想する進路が就職の高校生の自由記述では、お金に関する問題で、進学が厳しいという意見が多く見られました。

5、施設で生活する高校生のアルバイトと貯金について

(1) 実際の貯金額と目標貯金額

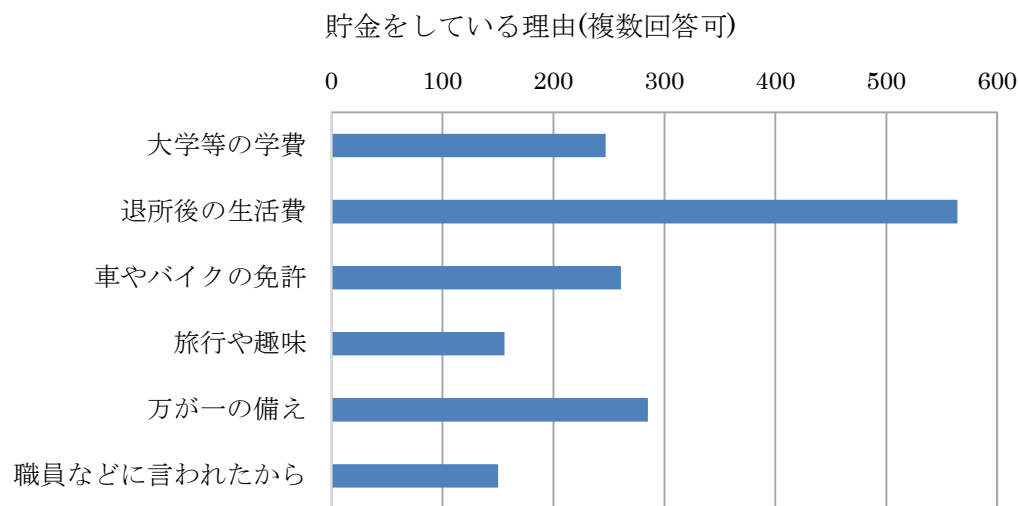
図表 5、実際の貯金額と目標貯金額の違い



貯金額に関しては、目標貯金額と実際の貯金額との間に大きなギャップが生じています。弊団体でも述べている、「卒業までに50万円」という額を貯めている高校生は少ないといえます。退所後親を頼れない子どもが多い中、進学という選択の難しさがわかります。

(2) 貯金をしている理由

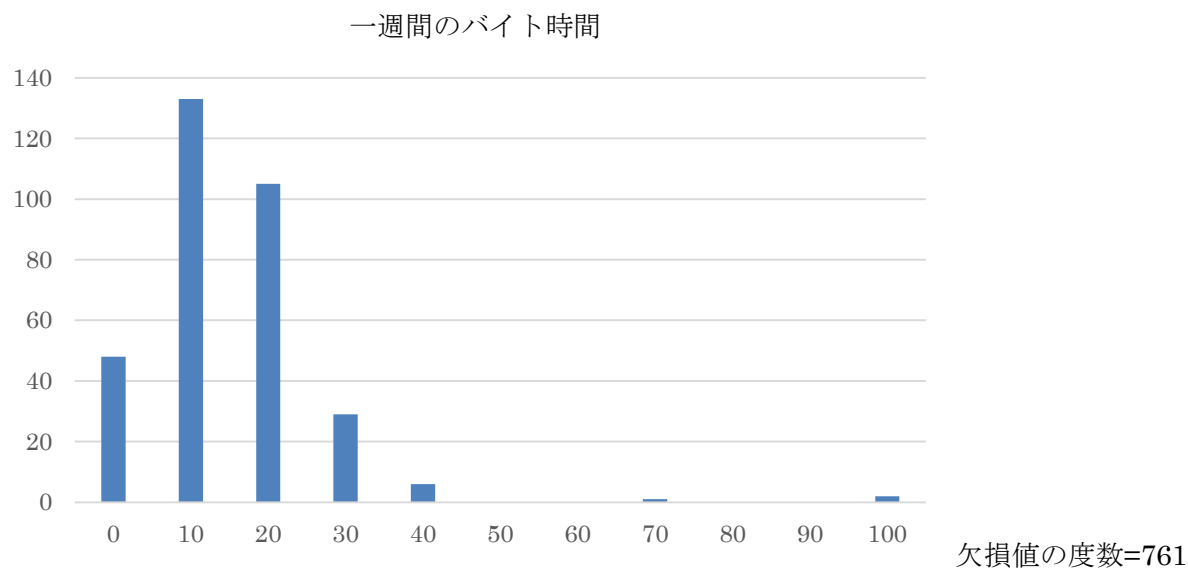
図表 6、実際に貯金をしている理由



貯金の理由としては、退所後の生活費が一番高い結果となりました。

(3) アルバイトの現状

図表 7、1 週間におけるバイト時間



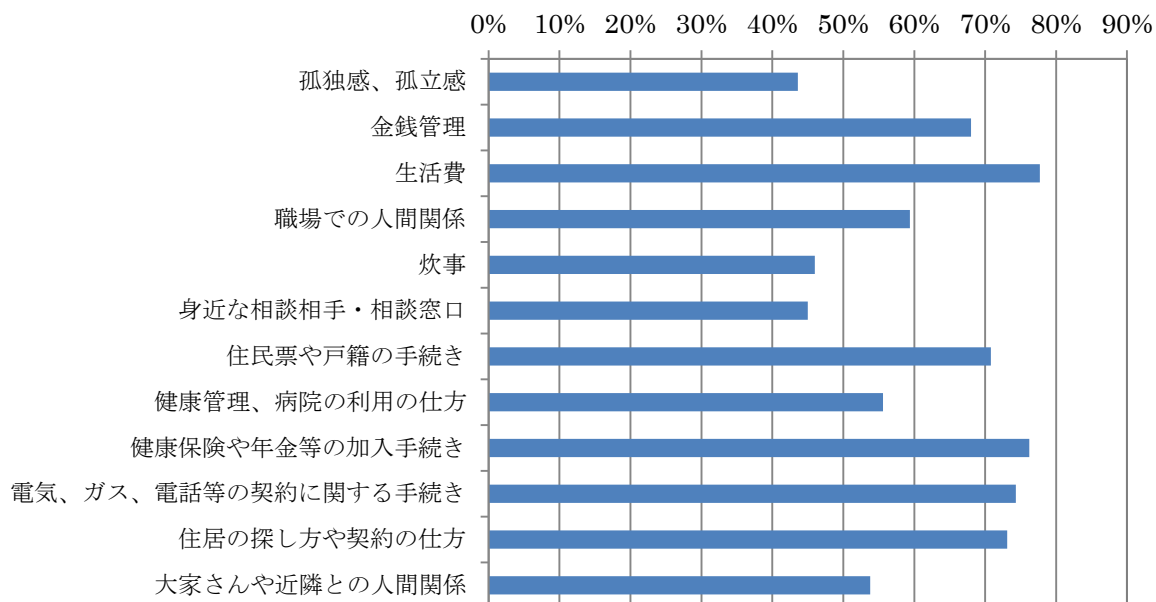
一週間のバイト時間に関しては、平均は 14 時間で、最頻値は 20 時間です。時給を 850 円としたら、およそ月 5 万の収入となります。しかし、回答していない高校生も多いため、バイトをしていない高校生も多いと言えます。

6、施設退所後の生活について

(1)退所後の生活で心配なこと、実際に困ったこと

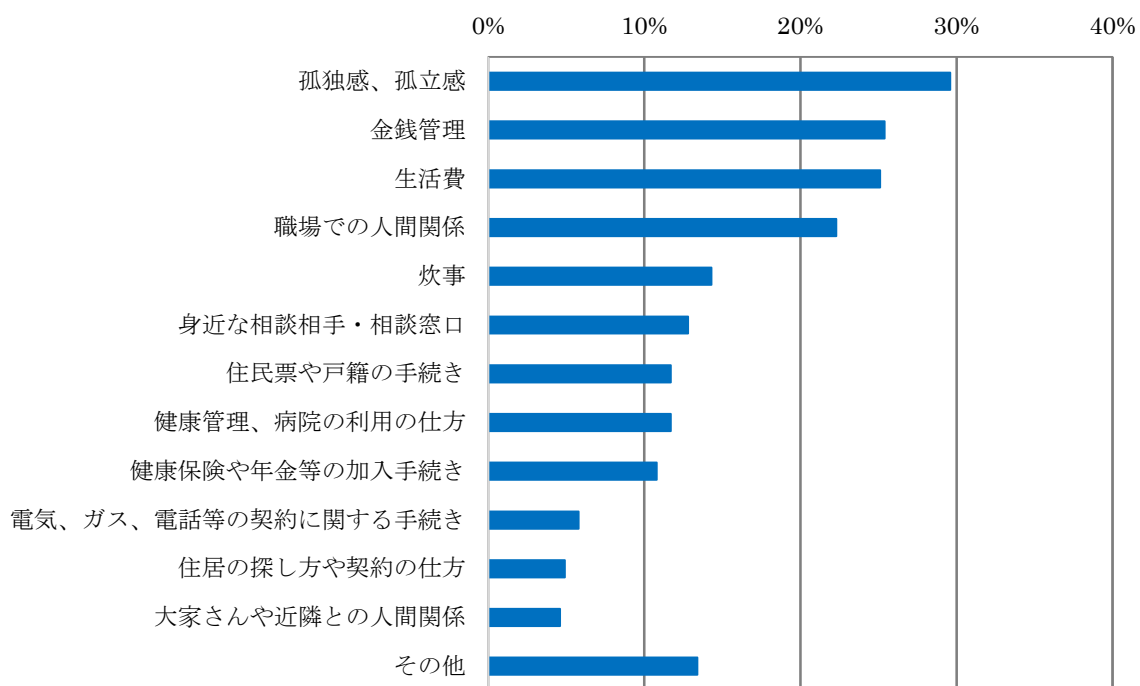
図表 8、施設で生活する高校生が、退所後の生活で心配なこと

施設高校生が退所後に心配なことについて(心配である、やや心配であるの割合)



図表 9、施設退所者が、退所直後にまず困ったこと*

児童養護施設退所者が、退所直後に「まず困った事」(複数回答可)



*注4：東京都福祉保健局「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書」（2011年8月）<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2011/08/DATA/6018u200.pdf> 参照。

施設高校生へのアンケートの結果としては、「金銭管理などのお金の問題」、「保険などの手続きや契約の問題」などが、退所後心配である割合が高い結果となりました。逆に、「孤独感、孤立感」の割合は、他の項目に比べ、一番低い結果となりました。しかし、東京都の調査によると、施設退所者が退所直後にまず困った事として、「孤独感、孤立感」の割合が一番高い結果となっています。つまり、施設退所後と退所前では、心配な事と困った事のギャップが起きているといえます。

弊団体の行っている支援を考えると、「保険などの手続きや契約の問題」や身近な相談相手などは、巣立ちプロジェクトや個別サポートにより支援できています。したがって、これから弊団体としては、ギャップの生じている「孤独感、孤立感」や、心配なことにおいて割合の高かった「金銭管理の問題」を支援していく必要があるのではないかといえます。